

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 232

2013年

5～6月号

行 事 案 内

Enjoy手賀沼! 第24回バードウィーク手賀沼探鳥会 (5月手賀沼探鳥会とカウント)

5月10日～16日はバードウィークです。恒例の手賀沼探鳥会を実施します。我孫子市鳥の博物館と当会が共催するイベント(山階鳥類研究所後援)で、同日、手賀沼親水広場で開催される「Enjoy手賀沼!」(Enjoy手賀沼実行委員会主催)に併せた行事です。探鳥会には50名以上の市民の参加が見込まれ、当会は探鳥会の実施面を担当するので、人手が必要になります。多数会員のお手伝いをお願いします。

期 日 5月12日(日) 雨天中止
集 合 手賀沼親水広場 午前8時30分
担 当 全幹事
案 内 6班編成で順次出発、ふれあい道路を東進し、高野山新田の信号の先で右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道を戻るコースとします。班毎に鳥合わせして解散です。原則12時終了の予定です。5月の定例探鳥会はこのバードウィーク手賀沼探鳥会に代えます。
雨天の場合は、我孫子市鳥の博物館見学会(入場無料)を行います。館内の案内、説明等を会員が手伝います。確認は7時30分以降「鳥博」(Tel 04 7185 2212)まで。

案 内 梅雨明けの初夏です。夏鳥の囀りが盛んになる頃です。緑の水田には、チュウサギ、アマサギが映えているでしょう。サシバの雄姿にも会えるかも知れません。ヨシゴイの飛翔、コブハクチョウのヒナたちなど、手賀沼の初夏を感じましょう。当日の服装には各自留意ください。

担 当 松本

5月、6月ピオトープ調査

期 日 5月2日(木) 雨天延期
6月6日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 5-6月はカモ、ツグミ等の冬鳥が去り、ツバメ、オオヨシキリ等の夏鳥が見られるようになります。昨年は野鳥を5月18種、6月15種観察出来ました。この季節は木の花、野草の花、蝶、蜻蛉等の昆虫、アマガエル等が多く見られるようになります。初夏の手賀沼周辺の草木の花、昆虫等を愛でながら探鳥をしましょう。参加希望の方は下記までご連絡下さい。
解 散 午前11時30分
担 当 鈴木静治
Tel: 080 3121 4757

6月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時

筑波山探鳥会(再掲)

期 日 5月3日(金・祭日) 雨天中止
 集 合 我孫子駅北口 午前7時
 案 内 880m足らずの山ながら、百名山のひとつに数えられる「筑波山」。その頂きからの眺望は古来より関東人の憧れであり、そして今は鳥見の名所。ここで飛来したばかりのキビタキ、オオルリ、コルリなど夏鳥の美声と姿を求めます。連休で混雑も予想される為裏側から静かな山道をのんびりと登り、自然研究路を巡るコースで皆さんと一緒に楽しみたいと思います。

交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人1,500円を運転手にお渡し下さい。なお、自家用車を提供可能な方はその旨を申込時にご連絡下さい。

持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
 申 込 金子雅幸まで
 Tel: 04 7133 6944
 担 当 北原、金子(雅)

奥日光探鳥会

期 日 5月25日(土)、26日(日)
 集 合 我孫子駅北口 午前7時
 案 内 昨年の探鳥会が好評でしたので、今年も奥日光探鳥会を企画しました。戦場ヶ原は広く、コースは前回と異なります。山の鳥、草原の鳥をゆっくり歩きながら楽しめます。ノビタキ、キビタキ、ルリビタキ、ゴジュウカラ、アカゲラなど昨年は60種が記録されています。

交 通 小型バス定員21名
 宿 舎 休暇村 日光湯元
 Tel: 0288 62 2421

費 用 23,000円(昼食は各自負担)
 持 物 観察用具、雨具、防寒具
 定 員 21名
 申 込 木村稔まで
 Tel/Fax: 04 - 7182 - 7958
 担 当 木村、六角

御前山探鳥会

期 日 6月2日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子駅北口 午前7時
 案 内 茨城県の常陸大宮市と城里町にまたがる御前山県立公園を探鳥します。水戸徳川家によって伐採が禁じられていたため、この一帯には豊かな自然が残っています。常緑樹と落葉樹の入り混じる樹海には、100種以上の野鳥がいるとされています。前回は雨模様でゆっくり探鳥出来ませんでした。今回はリベンジです。サンコウチョウが期待できます。

持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
 交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。なお、申込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

申 込 染谷迪夫まで
 担 当 染谷、小玉
 Tel: 04 7182 3972

5月役員会案内

日 時 5月12日(日) 13:30~16:00
 場 所 我孫子北近隣センター 並木本館
 会議室3 Tel: 04 7157 4517

議 題
 25年度下期行事計画について
 会報233号掲載予定記事について
 25年度役員と事業別分担について
 報告事項
 関係団体関連報告
 その他(議題のある場合は野口隆也までご連絡ください)

笹川・印旛沼探鳥会

期 日 6月23日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子駅北口 午前8時
 案 内 笹川周辺ではヨシ原の中のオオセ

ツカ、セツカ、オオヨシキリ、コヨシキリ、コジュリンなどを観察し、印旛沼ではヨシゴイやサンカノゴイを期待します。

交通 自家用車に分乗です。同乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。

持物 観察用具、雨具、弁当・飲物(途中のコンビニでも購入可)

申込 野口隆也まで
Tel: 04 7163 7898

担当 六角、野口(隆)

行事報告

2月手賀沼探鳥会

調査日時 2013.2.10 9:00~12:25

晴、微風、気温 10

天気は、晴れ、初めは風が冷たかったが、風が止み穏やかになった。ヒドリ橋の駐車場が、除染工事により狭くなったため、探鳥コースを北千葉導水センターからヒドリ橋まで往復とし、一部変更した。手賀沼上沼では、オカヨシガモ、ヒドリガモが近くで見られ、また、オオハクチョウ5羽が認められた。下沼では、ミコアイサが多く認められた。猛禽類5種を含め、42種が認められた。初参加4名の方も満足されたものと思います。

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コバクチョウ、オオハクチョウ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計42種
<探鳥斑>肥後邦彦、猪爪敏夫、谷山晴男、野口隆也、田中恒雄、六角昭男、鈴木静治、間野吉幸、金子雅幸、松田幸保、岡本和子、高橋廣子、鈴木幸子、金子幸子、石内亢、

小澤淳宏、岩田孝之、岩田マキ工、松本葉子、野口紀子、小林博之、田丸喜昭、成田奈穂、成田遥、成田菜、塚本真次郎、榎本右、石渡成紀、天野正臣、小林寿美子、古出洋子、五十嵐博実 (担当) 船津登

参加者 33名

<カウント班>北原建郎、松本勝英、染谷迪夫

調査日時 2013.2.10 9:10~12:15

晴 微風 気温 5

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	3	2	5
カンムリカイツブリ	7	12	19
カワウ	10	12	22
ダイサギ	1	1	2
コサギ	1	2	3
アオサギ	6	2	8
コバクチョウ	14	10	24
オオハクチョウ	6	0	6
カルガモ	0	81	81
コガモ	71	12	83
コガモ	172	12	184
オカヨシガモ	11	0	11
ヒドリガモ	6	31	37
オナガガモ	0	37	37
ミコアイサ	0	10	10
クイナ	1	0	1
バン	3	0	3
オオバン	12	34	46
ユリカモメ	21	10	31
セグロカモメ	2	1	3
合計	347	269	616

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治、間野吉幸、池田日出男

調査日時 2013.2.7 9:30~12:00

晴れ 無風 気温 12

雨上がりの晴天で穏やかな日和、風が無く沼の水面静か。1/14の降雪でピオトーブの枯れたヨシ、ヒメガマ、マコモ等が倒伏し、小鳥は観察し易くなったが、水鳥は観察し難い。

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、コガモ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス 計 25種

3月手賀沼探鳥会

調査日時 3月10日 9:00~11:50

晴れ やや強い風 気温 23

風もなく穏やかな鳥見日和でスタートしたが、10時過ぎから気温が上がり風が強くなった。オオジュリンが葦の上に上がって見やすくなり、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワなどの囀り始めが聞かれた。冬鳥も終盤になるが、普通に見られるカモ類やツグミ類の中でツバメも観察された。

<認めた鳥>カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 42種

番外：カワラバト

<探鳥班>大久保陸夫、佐々木隆、天野正臣、天野睦子、間野吉幸、肥後邦彦、榎本右、野口隆也、小林寿美子、松本勝英、松本葉子、田中恒雄、畠中暁美、石渡成紀、浅野利幸、小澤淳宏、船津登、武藤康之、松田幸保、北

原建郎、村瀬和則、相良直己、常盤孝義、猪爪敏夫、佐藤弘美、小林博之、鈴木静治、古出洋子、桐山宏子、飯田恵子、田丸喜昭、六角昭男、金子幸子、岩田孝之、岩田マキエ、小玉文夫（担当）桑森亮 参加者 37名

<カウント班>木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2013.3.10 9:15~12:15

晴 強風 気温 15

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	7	0	7
カンムリカイツブリ	14	13	27
カワウ	28	30	58
ダイサギ	2	1	3
コサギ	1	2	3
アオサギ	0	1	1
コブハクチョウ	15	8	23
オオハクチョウ	5	0	5
マガモ	2	22	24
カルガモ	50	9	59
コガモ	101	6	107
オカヨシガモ	4	0	4
ヒドリガモ	3	2	5
オカガモ	2	35	37
バン	2	1	3
オオバン	22	7	29
ユリカモ	13	6	19
セグロカモ	2	1	3
合計	273	144	417

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治、間野吉幸、金子雅幸、蒲田知子

調査日時 2013.3.7 9:30~11:30

晴れ 微~弱風 気温 18-19

3月初めと思えないほど暖かく穏やかな日和、風もなく沼、池の水面鏡の様。ピオトーブは葛、蒲等が倒伏しているため、小鳥は観察し易い。花穂の出始めた柳にシジュウカラの群れが採食、アリスイも観察、チュウヒ、コチョウゲンボウの飛翔も観察出来た。

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、チュウヒ、コチョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、アリスイ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、

カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシ
ボソガラス、ハシブトガラス 計 32 種
番外 カワラバト

渡良瀬遊水地探鳥会

2月17日

【幹事報告】やや冷たい風は吹いていたものの快晴の中、21名の参加を得て我孫子を出発しました。現地渡良瀬では早速にアオゲラ、アカゲラ他が出迎えてくれ、出足は上々。次の鷹見台や第3調整池ではノスリ、ハイロチュウヒ、チュウヒ、ミサゴなどが存分にその美しい飛翔を楽しませてくれました。昼食後のいずみ池ではほとんどのカモ類を観察する事が出来た上、その後背地ではミヤマガラスや順光を浴びた綺麗なハイロチュウヒの飛翔まで見られ、45種を認めた探鳥会を大満足の内に終了しました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、オオバン、キジバト、カワセミ、アオゲラ、アカゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、モズ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、クイタダキ、シジュウカラ、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス 計 45種

<参加者> 今村之明、大久保陸夫、間野吉幸、田中恒雄、吉田隆行、浅野利幸、桑森亮、猪爪敏夫、船津登、五十嵐博実、古出洋子、田丸喜昭、田丸メリーリス、井上正、小林博之、小林美智子、山本貞江、畠中暁美、野口洋子（幹事）野口隆也、金子雅幸
参加者 21名

銚子カモメ探鳥会

3月3日

~ 見てるのに見れない幻クロワ ~

古賀嗣郎

3月1, 2日と吹き荒れた春一番の強風。北

海道では被害が。しかし3日(日)我孫子の朝は風が弱まってきた。例年1月中旬の「銚子漁港・外川漁港」が、3月「銚子・波崎漁港」に衣替えしたのだ。駅前7時半、車3台・会員12名が揃うと、金子さんからカモメの珍鳥1羽飛来との朗報。順調に走行し、銚子漁港直売所(建屋は取り壊し中)でトイレ休憩。トビの出迎えた。銚子に到着すると、調子よく強風はピタリと止んでいて快晴、寒さは感じない。

銚子第1ポイント、防波堤上段にウ類、下段にカモメ類がいるも、例年より大幅減。しかもカモメ類9割以上が顔を羽衣に埋めてお休み中。それでも順番に鳥をチェック。セグロカモメ、オオセグロカモメ、ユリカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコなどしか見つからない。

早くも第2ポイント千人塚へ行く。遠くにスズガモはいるが、シノリガモは留守。

第3ポイント、第三漁港、近くにカモメ類30数羽が犇(ひし)めいていて、カメラ向き。突堤にクロサギ発見。右方漁港にカンムリカイツブリ、アカエリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリが潜っている。

12時半、銚子大橋を渡って、千葉県から茨城県波崎へ移動した。公園の階段に並んで昼食。

波崎第1ポイント、河畔プロムナード通りから防波堤を観察。銚子より近くに感じる。上段にウ類、下段にカモメ類がいるも、カモメ類9割以上がお休み中と、銚子と同じ調子。所が偶然にもそこで、浅野さんの鳥友久野さんに会う。クロワカモメなら今ここにいたよと。丁寧にスコープや望遠カメラに入れて頂いたり、位置を教えて頂いたりした。残念な事に、クロワカモメは嘴を背中に入れて、目を開けたり閉じたりして座り込んでいる。目敏い人もいるもので、信じられない程素早く、野口さんが嘴をカメラに撮ったという。カメラをクロワカモメに向けフェンスに置き、指をシャッターに掛けたまま、じっと静かに構えた。それから十数分経ち、痺れがきた頃、突然百羽ほどのカモメ類が音を立てて飛び舞った。私がそちらに目を離れた一瞬、クロワカモメが顔をあげ、再び嘴を背に入れたという。「見たよ、カメラに撮れたよ」と言う声が、間抜けの私の耳にあちこちから聞

こえてきた。

「では波崎第 2 ポイントへ移動します」
の声。後ろ髪(無いけど)引かれる思いとは
この事か。クロワカモメのクロワとは、嘴先
端付近に黒い輪があるからだ。これ見ずして
クロワか。ライフリストにカウントして良い
のか？

波崎第 2 ポイント、波崎漁港、浜目に何
も見えない。

波崎第 3 ポイント、波崎海水浴場横の漁
港、夏羽のカムリカイツブリ数羽が泳いで
いた。浜辺では、ハマシギ、ダイゼン幼鳥、
メダイチドリが餌を採っていた。

波崎海水浴場管理施設に移動して、「鳥合
わせ」をする。15時半解散して帰路に着く。
幹事さん、運転手さん、ご苦労様でした。有
難うございました。

注)クロワカモメ 黒輪鷗 Ringbilled
Gull L45cm、W122cm (カモメ 鷗
Common Gull L45cm、W115cm)

カモメに似て、足・嘴は黄色っぽく、羽衣の
色も殆ど同じ。目がカモメは黒で、クロワは
黄白色。但し、最大の違いは、嘴の先端近く
にハッキリとした黒帯がある。和名、英名の
名前の由来だ。日本では、1985年1月に神
奈川県相模川河口で記録された迷鳥。アメリ
カとカナダの湖沼、草原で繁殖し、アメリカ
南部、メキシコ・キューバの沿岸で越冬する。
オビハシカモメともいう。

【幹事報告】やったー！！

冬の銚子に一時期だけ姿を見せる1羽の「ク
ロワカモメ」を、幸運にも全員がゲット。カ
モメに似ているが、やや太い嘴に明瞭な黒い
環、やや薄い背の色、小さめのミラーとその
姿・特徴は全てが凶鑑通り。この冬は何故か
異常な位に鳥影が薄い銚子は、この日も認め
られた鳥数は少なく、通例のシノリガモ、ミ
ツユビカモメ、ハヤブサ等も認められなかつ
たが、その寂しい状況もクロワカモメの出現
で十分に救われた想いだ。又例年より時期を
ずらせた事で、夏羽に移行中のカイツブリや
頭部の白くなった綺麗なカモメ達を観察出
来た事も収穫であった。

注 昨年9月の日本鳥類目録7版改定時に、
クロワカモメはオビハシカモメと改名され
た様ですが、評判もイマイチでありここでは
馴染んだ旧名を使用致しました。

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、
ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、カン
ムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、
ダイサギ、コサギ、アオサギ、クロサギ、マ
ガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシ
ビロガモ、スズガモ、トビ、チュウヒ、オオ
バン、シロチドリ、メダイチドリ、タゲリ、
ダイゼン、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、
セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモ
メ、ウミネコ、クロワカモメ、ハクセキレイ、
タヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、
スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス 計 42種

<参加者>浅野利幸、池田日出男、古賀嗣朗、
小玉文夫、相良直己、中野久夫、野口隆也、
松本勝英、松本葉子、間野吉幸 (幹事) 桑
森亮、金子雅幸 参加者 12名

北本自然公園探鳥会

3月17日

春の里山で

小澤淳宏

探鳥会の日は、遠足を待ちきれない小学生
のように、朝早く目が覚めてしまう。当会に
入会して半年も経っていない私にとって、探
鳥会で初めての鳥を見ること、先輩方から教
えていただくことはすべて新鮮で大きな楽
しみになっている。

6台の車に分乗し、車は国道16号から17
号へと道を取り順調に北本自然観察公園に
着いた。好天に誘われて多くの人が来ている
らしく広い駐車場に車が多い。

ここ北本市の中心部に在職時代の関東支
社があった。将来有望な幹部には、この小さ
な支社で支社長として営業経験を積ませる
のが王道であった。理由は、この地域(埼玉、
栃木、茨城、群馬)は顧客の質が良く、売り
上げに伴うトラブルが全国一低いため、支社
長は在任中にキズ付くことがなく、さらに上
級の幹部に昇進することが多かった。「北本」
にはそういう生臭い思いが私にある。

しかし、一步公園に足を踏み入れるとそん
な思いはすっかり忘れ、昔懐かしい里山の風
景が目の前に広がっている。双眼鏡やカメラ
を携えた人が多く、期待はますます膨らんで

くる。「自然学習センター」で最近見られる鳥情報を仕入れる。ベニマシコ、アトリ、アカゲラ、アオゲラ、アリスイ、ガビチョウなどでているようだ。

数日來の暖かさで東京ではソメイヨシノが平年より2週間程早く開花し、ここ「北本自然観察公園」でも一気に春が来たように思える。薫風というには早すぎるが風が気持ち良い。園路に入るとアオジ、ツグミ、シメ、シジュウカラがさっそくわれわれ一同を迎えてくれる。私はシジュウカラが群れてパラパラと舞い上がり、落ちる景色が大好きだ。シロハラはいつものことだが、わき目も振らず落ち葉を掘り返し餌を探している。

梅の甘い香に包まれた小道をゆっくりと歩む。水ぬるむこながれにはドジョウ、絶滅危惧種のホトケドジョウ、オタマジャクシもいる。いきなり市指定天然記念物エドヒガンザクラが目の前に現れた。見慣れたソメイヨシノと異なり縦の溝が走る木肌が美しい。花は2分咲きくらいか。1週間後の満開の絢爛な姿を想像すると、その頃また訪れてみたくなる。満開の梅林ではお馴染みのヒヨドリが花びらを散らしている。梅林の奥の方にホオジロに似た鳥がいる。いやベニマシコか。不運にも近くに詳しいベテランの方もいないので尋ねることもできない。やはり私のような新入会員は常に経験深い人の近くにいる、教えてもらうのが最善のようだ。

湿地の榛の木の前根元にアカハラが悠然としている。きれいな赤い胸を撮ってくださいとばかりにカメラマンにポーズ。葦原でイタチらしき動物が観察された。色が黄色いので場合によってはテンの可能性もあるとのこと。いずれにせよ初めて見る野生動物である。

昼近くなると鳥影が減ってしまった。そんな中で、キジ(雌)をみつけたとの声。教えてもらった方向を双眼鏡で覗くがなかなか捉えることができない。遠くの藪の中にやっとのことでキジがいるのが分かる。じっとしていると藪に同化しているキジを見失うくらいだ。遠くて見つけにくいキジを最初に見つけたN氏の観察眼に感嘆！

少し早めに昼食をとる。昼食時の先輩方との雑談がまた楽しい。貴重な話を聞けるチャンスでもある。昼食後しばらくは鳥影が少なくなり、まるで春の里山散歩になってしまっ

た。ここで、ただでは帰れぬとばかり春の菜花摘みに切り替えた女性陣。今晚は菜花のおひたしで春の香りを楽しむのだろうか。

東屋近辺ではウグイスが見られた。誰かが「あれはオスなの、メスなの?」と言ったとたん、「ホーホケキョ」と見事なさえずりで答えてくれました。サービス精神旺盛なこの個体は、新芽のでた柳に移り惜しげもなく姿をさらしカメラを構える人たちを喜ばせていた。東屋横の藪からアオジが出てきて足元1mまで近寄ってきます。すっかり安心した様子で採餌。池のアオサギは何回もエサ取りに失敗している。嘴がピンクに変わっているのは婚姻色だと教えてもらう。コガモ、マガモが春の日差しを浴びて浮かんでいる。マガモの緑が春の日差しに映えて美しい。

ここ北本自然観察公園は自然をなるべく残し、観察・散歩がしやすいよう適度に手を入れ、案内表示、トイレの設置なども適切で、素晴らしい自然公園であると思う。

ひそかに期待していたレンジャク、アオゲラは見られなかったものの、36種の鳥を観察でき、春を満喫できた探鳥会であった。

帰りの車では同乗の3人が一人ずつ居眠りを始めてしまい、ドライバーの桑森さんには大変失礼してしまいました。幹事の皆さん、ドライバーの皆さん本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

【幹事報告】 参加者25名6台の一行は我孫子駅を定時に出発、国道16、17号の幹線経路を予定通りの10時少し前に到着、自然学習センターでのミニミーティングの後、概ね反時計まわりの探鳥を開始しました。満開の梅、2分咲きのエドヒガンザクラが歓迎してくれました。

レンジャク以外は観察されるとの情報で期待が高まり、早速、木道先の湿地沿い斜面にはシメ、シロハラ、樹上にはシジュウカラ、ヤマガラなどが出迎えてくれました。

午後には、草地のトラツグミ、ブッシュで見え隠れするアリスイ、全身を現わして自慢げに囀るウグイス、一瞬でしたがアカゲラの姿、採餌に夢中のベニマシコなど十分期待に応えてもらえました。

14時半から、センター2階で鳥合わせ、玄関前で集合写真の後、自由解散しました。<認めた鳥> カイツブリ、アオサギ、マガモ、

カルガモ、コガモ、ノスリ、キジ、キジバト、アリスイ、アカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、アトリ、ベニマシコ、ウソ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計 36 種

<参加者>野口洋子、吉田隆行、中野久夫、間野吉幸、鈴木幸子、山住良子、金子幸子、井上正、小林博之、小林美智子、浅野利幸、池田日出男、桑森亮、相良直己、小澤淳宏、大久保陸夫、小玉文夫、畠中暁美、松下勝子、船津登、中根忠、中根洋子、松本葉子(幹事) 松本勝英、野口隆也 計 25 名

寄稿

台湾、金門島に鳥を訪ねて 2/21 ~ 2/26

古出 洋子

今回の台湾行きは2012のJBFに台湾保育協会の林さんが来訪された際に間野会長との間で日程が決まり、私は天野さんと共に即座に申し込みをし、年末には揃ってニコンのクールピクスP510(光学42倍)を購入し楽しみにしていました。出発迄に会長は張さんや林さんと何度となく遣り取りをし、金門島の気候なども調べ女性6名には特別説明会もして下さいました。そして最高齢80歳の大久保さん(3回目の訪台)を筆頭に21名での出発となりました。

2/21 出発の朝は気温が下がり、私はセーター、ダウンジャケット、雨具兼用のフード付きコートを着るといふ出立でした。エバー(長栄)航空にて成田を出発し4時間程で台湾桃園国際機場(空港)に到着。機内にてマイナス1時間の時差を調整する。更に市中央部の松山機場より国内線の華信(マダリ)航空にて金門島に向かう。この時荷物の預け入れに時間を費やしたため搭乗を急かされ、座席に座るや否やの出発となった。この機は通路を挟んで左右2席の147名乗りだった。約1時間弱で金門尚義機場に到着。待ち受けていた大型バスFUSO WW308に荷物を積み込み早速探鳥に向かう。最初の探鳥地は慈提。バスの中からカイツブリ、コサギ等が見られ、降り立ったところの砂州に沢山のシギ類が群れていました。ハマシギ、ミコビシギ、キョウジョシギなど。サギ、カモ類、チョウゲンボウも。風も冷たく鳥も見えにくくなったので引き揚げ、金麒麟レストランで夕食を済ませ、セブンイレブンで水、お酒などを各自購入。これが台湾ドルでの初めての買い物となる。1台湾ドルは日本円の約3円に当たる。金門での3連泊をする警光会館(金門警察の福祉施設)に到着。部屋割りにはバスの中で知らされ、同室は弘實さんとなる。部屋に荷物を運びこむとすぐに1階の食堂に集まり鳥合せ、次に日本語のできる郭さんより現地スタッフの紹介あり。以下の方々です。(4日間で得た情報も含め)

	林 先生	台湾野鳥保育協会会長	本職はエンジニア
鳥ガイド	廖 美鳳	(東風旅遊)バードウォッチング歴17年	
	江	結婚して6年ほどの御夫婦	
アシスタント	江 伊婷	台湾バルブに勤務	とても可愛い御嬢さん 林さんの教え子? 新宿に居たことあり、多少の日本語 OK
	郭 秀娟	日本語・中国語通訳	本職は貿易関係 定年後ガイド希望

さらに「翡翠」のビデオの放映あり。翡翠・斑翡翠・黒頭翡翠・蒼翡翠の紹介、子育て中八哥鳥に穴を横取りされ幼鳥は放り出され死んでしまう。この穴を利用して自分の子育てをするといった内容のもの。終わったらかなり遅い時刻になっており、バスタブなしのシャワーを浴びる頃には疲れて頭も働かず、ベッドに入るも寒さで夜半に目が覚めてしまった。翌朝6時モーニングコールで起床、7時朝食 7:30 集合 7:40 出発(4日間ほぼ同時刻のスケジュール)

ユール) 早い人は朝食前に付近を探鳥していた。

今日からは、貴重品と探鳥用具だけの持参である。身軽と思っただが、首からは貴重品入りの超小型バッグ、双眼鏡、デジカメ、ネームプレートそれに帽子の鎖があり、これらが使うたびに四つ巴となって絡み合い難儀する。こうしてみると、いつも男性陣のスコープを気軽に覗かせて頂き本当に感謝しなくてはならないと思う。

金沙水庫 日本でも見られるサギ、カモ類(ヒドリ多数)が見られ、細長く続く水路を進んで行くと、昨夜ビデオで見たヒメヤマセミが向こうからどンドンこちらに飛んで来るではありませんか。「あっ ヒメヤマセミ」そして我々の前でしばしホバリング。又その少し先の対岸に中型の黒に背部だけが赤茶色の鳥発見。林さんにお聞きするとオオバンケンとのこと。さらに先陣が何か見つけた様なので急いで行くと、対岸の木立の中程にヤマショウビンとのこと。カメラ初心者の私も必死で対岸のそれに焦点を当てようとするがなかなか上手くいかない。手が疲れる、再度挑戦。やっと捉えシャッターを押す。これが時にはシャッターを押した途端にレンズが下を向いてしまい鳥は写っていないということもしばしば。近くにいた方々にアドバイスを頂き、脇をしっかりつけるようにすること、更に最初から望遠にはせず、徐々にしていくと捉えられることを教わる。**浦邊海岸**の岩場をスコープで見せて頂く。赤い嘴と足、白黒のはっきりしたミヤコドリとやはり嘴は赤いが白っぽいオニアジサシが2羽ずつ仲良くおり、その奥の岩陰にはシギ類が同じ方向を向いて首をすくめている。**山后民俗村**では**戴勝**が見られるという前情報があったにもかかわらず、女性陣の多くは食いに魅せられ郷土料理を食することに。郭・蓼さんがおごると言ってくれたが申し訳ないと辞退すると、「それでは百元ずつ出して下さい」との事だったが、次々とお皿が運ばれてくる。探鳥もなくてはとその場を離れたが、すでにヤツガシラを見たという声。慌ててその辺を巡ったがとうとう見られず、木々の間より姿は見えないがクロウタドリの美声が。この後、林さんのクラスメートの張さん(金門県政府の要職にあると思われる)より県政府編の「観鳥金門」なる図鑑(各自に)とコーリャン酒を頂戴する。その夜もビデオ鑑賞(南遷北返)の後、お骨折り頂いた林さんへのお土産が野口洋子さんより手渡された。このお土産は彼女達有志が銀座の名店まで足を運び選んだ漆小盆で、彼女がその絵柄等を説明すると郭さんが通訳し、林さんのお礼の言葉も我々に通訳された。さらに円卓を囲んでコーリャン酒を味わいながら銘々が今日までの感想を語った。いつもはイの一番に鳥を見つける松本さん曰く「ヤツガシラが見られなかったことが残念。このまま見られなかったら女房には見たと言うしかない」と。

3日目 小金門へ渡るため港で下車をした所でヤツガシラ発見。皆で「松本さん」ユール。船は私達を乗せると満席。荒波を一気に小金門へ。港から廈門のビル群が見える所までバスで行き探鳥開始。(ここで温かい2種の揚げまんの供給あり。一個をすぐに頬張ったが玉ねぎが甘くとてもおいしかった)まずはアリスイとのことだが見られず。その先を左折して行くと、先程は暑くて一枚脱いだのに涼しくなって大自然の中に右にも左にも沢山の水鳥が見えてきた。しかし私は廈門のビル群を映した直後に電池が切れてしまいスペアも置いてきてしまった為、ここからの鳥たちの優雅な様子をカメラに収めることは出来なかった。この日は2,30羽のセイタカシギやツルシギなどが大自然の中でゆったりと戯れていて本当に残念であった。海辺の小高い海園レストランで昼食を済ませ、ひんやりとした九宮坑道を抜けるとそこは港で、2時の船で大金門に戻ると先のヤツガシラが同じ場所^{むんぼ}で待っていてくれた。この夜もコーリャン酒と帰路の果物店で購入した蓮霧(ローズアップル)や棗を食べながら、明日以降お別れする現地スタッフに心ばかりの謝礼をし、あちらサイドの感想をお聞きした。鳥ガイドの蓼夫妻は我々の鳥の知識の高さに驚かれ、可愛い江さんは自分の祖父母の様な歳の人達ばかりなのに(ただ一人平岡さんだけは若いけどと断って)重いものを担いでとても感動したと。(いずれも郭さんの通訳で)そして彼女達から無患子^{むくろこ}で作られたキーホルダーが一人一人にプレゼントされた。

4 日目は花の蜜を吸う^{ぶんび}叉尾太陽鳥などを見る。小さな鳥で動きが素早いので良く見ることは困難だった。又この最後の金門島で高校生と思しき 4 名のバードウォッチャーと出会った。18 時 40 分台北松山機場着。台北では今日が春節の 15 日で盛大なお祭りがあり電飾でにぎにぎしく色取られ、沿道は人人人で溢れていた。北投熱海大飯店に到着。いよいよ待ちに待った温泉に入れると一同大喜び。林さん江さん(チャーミングな)も加わりカラオケルームでの夕食。でも歌ったのは林さんただ一人。画面に林さんの造った橋が映し出される。そこへ黒いドレスの妖艶な美女が現れる。明日からのガイドさん?とのことだったが実はツアーリストのオーナーだった。このオーナーが特上の蓮霧と棗を下さり、帰国時には空港に真っ白なスーツ姿でお見送り下さったのです。

5 日目 海岸線を走り野柳公園へ。探鳥しながら浸蝕された岩々を見たのですが、蒸し暑く鳥も数羽の水鳥と小鳥を認めるのみ。其隆港に停泊の日本丸を見ながら九份に向かう。旧金鉦の町が観光地として復活した狭い階段を上っていく両側は食べ物、お土産物、衣料品などのお店が隙間なく並んでいるが足を止めることもなく素通り。有名な「非常情市」の舞台となった阿妹茶酒館をカメラに収めすぐ下る。先に通った其隆港が眼下に開け、山腹の緑の中にオレンジ色の道教の寺院が鮮やかな印象を残した。私達女性はこんなところで土産物など漁るのが好きだが、何せ少しでも鳥を多く見たい人達ばかりなので下山し、台北植物園に向かう。月曜日で休園だが門は開いているとのことで 18 時まで探鳥することになった。市中の植物園であるが餌付けをしているのか多くがシャッターに収まってくれた。皆が群がったのはオオコノハズク。幼鳥で白っぽい羽毛の塊の様で眼鼻を確認するのが容易ではなかった。五色鳥も^{ごしきどり}鳴き声を覚えるもすばやく飛び交い篤と観察するには至らず。しかし本日鳥研の平岡さんが 16:02 アカモズを観た時点で百種目を達成する。

最終日陽明山にヤマムスメを見に行った時に昨日の五色鳥を多数目にする事が出来たのです。肝心のヤマムスメの姿はなく、時間は迫り大型バスの待つ駐車場までタクシーでピストン輸送する羽目になり下山。麓近くでふと窓外を見やるとカササギの様な鳥が木に止まる。前の席にいた田中功さんが「ヤマムスメ！」と叫ぶ。長い尾の内側が白黒の横縞であることを確認。認めた人は数人。前回台湾に来た人達が思い出したように「そうだここだった。小学校の横にバスを止めて」と残念そうに言った。空港に用意された寿司弁当を慌ただしく食べ、免税店でコーリアン酒その他を買い求め機内の人となる。事前調査で雨の多い土地との事であったが 6 日間ともに晴れて、しかも案内をして下さった 6 名の方々の真心籠ったガイドのおかげで心行くまで探鳥を楽しめ本当に良かった。

帰路の成田線の車内では、北投温泉での中国客のマナーの悪さで、温泉に入れなかった話で持ち切りだった。こんな経験も国外ならではのこと。とにかく楽しく充実した 6 日間でした。会長さん、同行の皆さん又行きましょう。お疲れ様でした。

今回用意された金門鳥類一覧表のお蔭で中文の漢字が鳥の姿など捉えるのに非常に役立った。難しい漢字も多かったが漢字の良さを認識させられた旅でもあった。それに未熟ながらカメラのお蔭で薄れた旅の記憶も思い起こされています。

俳句十句

蝶のやうひめやませみのホバリング
牛の糞踏みつつ鳥を探しけり
砲弾残る南遷北帰の鳥たちよ
麦畑スプリンクラーの高々と
牡蠣殻の遥か彼方になべこうが
春節や赤提灯の波うねり
小籠包待つ一〇一塔と春満月
やまむすめ探す花見の陽明山

むずかしい漢字の鳥よ春惜しむ
台湾に鳥を追いかけて二月尽

(久しく吟行にも句会にも参加しておりません。私の属した結社は有季、叙情を旨としておりますが、外国での句作は初めてなので無季もあります)

投 稿

我孫子市近郊、印西市の鳥見 (その1)

～コブハクチョウ、シギチ、コハクチョウ、オシドリの群れ～

鈴木 静治

我孫子市、柏市の主な探鳥地は本会 40 周年を記念して一般向けの小冊子「四季の手賀沼周辺散歩～野鳥と草木と風景と～」が多くの会員のご協力により 2012.3.1 に刊行され好評でした。私の住む布佐周辺は少し歩くと、印西市となります。印西市には、前述の本で紹介されなかった関東でも屈指の探鳥地がありますので、以下に紹介してみます。

1.発作地区のコブハクチョウ

コブハクチョウは日頃、手賀沼、手賀川で見慣れているため、春の巣作り、可愛い雛を連れた親子連れ的光景には注目しますが、他の時期にはまたコブハクチョウかといった感じで見ています。しかし日頃、あまり鳥を見ていない一般の人にとってはハクチョウが湖・川を悠々と泳ぐ光景は素晴らしいものです。東京新聞(2011.6.24)を見ていたら日本全国でコブハクチョウ 269 羽との記載がありましたので、本当に野生のコブハクチョウはこんなに少ないのか、手賀沼、手賀川には相当多くいるのにと思い、2011.8.18 手賀川、手賀沼をまわり調べてみると、92 羽が確認できました(会報 No.223)。この時は大津川、大堀川、亀成川は調べていませんので手賀沼周辺には百羽位生息していると推定されます。平成 23 年度全国ガンカモ一斉調査(2012.1 暫定値)では全国 215 羽、内訳は茨城県 85 羽、山梨県 55 羽、千葉県 38 羽であり、詳しく見ると、手賀沼(我孫子市)32 羽、大津川(柏市)4 羽となっていました。私の調べた 92 羽と 36 羽との差は主に手賀川、発作が調査地点に入っているかいないかの差であることが分かりました。冬、発作橋周辺の下手賀川にコブハクチョウが朝夕 70 羽位群れることを日頃観察していましたが、2011.10.7 夕方、発作橋を通りかかったところ山ほどの食パンを橋の上から 70 羽位のコブハクチョウに投げ与えている数人の人を見つけ行ってみますと、印西周辺の有志が与えているようです。私もそれに加わりパンを千切って投げたが、パンは軽いのではなかなか遠くに飛ばず、他にオオバンも 100 羽以上パンを狙って集まるので、餌の取り合いも大変な騒ぎでした。しかし、70 羽のコブハクチョウが泳ぐ光景はなかなか壮観なものです。70 羽ものコブハクチョウの大群がみられるのは滅多に見られない光景でしょう。以前欧州に旅行した折、お城近くの湖に浮かぶハクチョウに感激したのですが、コブハクチョウでした。コブハクチョウは北欧、シベリア等で繁殖し、欧州東南部、アジア西南部で越冬するといわれ、デンマークの国鳥になっています。日本には八丈島に飛来した記録がありますが、いま野鳥としてのコブハクチョウは飼育用として外国から持ち込まれたものが野生化したもので、放鳥は皇居のお堀が最初とされています。1975.9 大沼公園で放鳥された 2 羽が繁殖し、1977.5 ウトナイ湖に移り、1987 年には 90 羽にも増えましたが、血縁関係が濃いためと高齢化(寿命 20 年と言われている)のため 2007 年には 7 羽に激減しました。1984 年の標識調査でこのウトナイ湖のコブハクチョウが霞ヶ浦の北浦まで渡りをしたことが分かっています。手賀沼、手賀川に百羽位いるコブハクチョウが今後どうなるのでしょうか。この前調査時に若鳥が 10 羽以上いたので(5 羽以上/年なら増える)当面数は増えるでしょう。その場合、手賀沼、手賀川流域で川岸の葦原、中州に巣作りできる場所も多く、食物の水草、堤防の野草も多く存在しますが、食べ物の少なくなる冬は発作のような給餌場所も必要と思われます。

なお、手賀沼、手賀川のコブハクチョウは 1987-1988 年に 2 羽、1990 年に 1-4 羽飛来し

たものが 1991 年以降増加したもので、血縁関係は濃いと考えられるため、今後増えない可能性も考えられ、定期的な調査も必要と思われます。

2.発作地区のシギチ

4-5 月の発作～我孫子市相島、下沼田、中沼田の田植え前・後に水の張られた水田に春の渡りの途中、食物調達のため立ち寄り、シギチ、主にムナグロ、キョウジョシギ、キアシシギ、ハマシギ、チュウシャクシギ等です。50-100 羽の群れが水田上を鳴きながら速く飛び回る様子は夕暮れ時散歩する時出会えるのは楽しいものです。他に、少数ながらタマシギ、タシギがいたり、ヒバリシギ等が群れに混じっていることがありますので、これらを探すのも楽しいものです。またスコープでよく見ると群れの中に左脚の関節の上に青いフラッグ 1 枚をつけたキアシシギを見たことがあります。写真を撮り山階鳥類研究所で調べてもらいますと春国岱(北海道)で放鳥されたものと思われるとのことでした。この鳥は前年の春又は秋、北海道を通過する時フラッグをつけられたものでしょう。想像をたくましくすると、オーストラリア 東南アジア 東京湾 発作 霞ヶ浦 北海道 カムチャッカ半島 シベリア 繁殖地へ渡る途中、ここの水田、春の干潟で食物調達してひと休憩しているのだと思うと、よくぞ立ち寄ってくれましたという楽しい気分になります。この辺りが昔から渡りのルートなのでしょう。ムナグロは多いのですが、よく似た海の干潟にいるダイゼンを見たことがありません。陸地好きな鳥(ムナグロ)と海岸が好きな鳥(ダイゼン)がいるのでしょう。これからシギ、チドリの探鳥時期に入りますので、是非一度発作のシギ、チドリを見に来てください。その際、農家の農作業時期と重なりますので、農道をふさぐなど農作業を邪魔しないよう探鳥マナーを守るようにしましょう。(次号に続く)

1 月役員会報告

日時 3月10日(日) 13:30～16:30

場所 水の館 3階研修室

1. 定期総会資料について

- ・25年度定期総会次第については異議なく了承されました。
- ・24年度事業報告(案)については一部修正・追記されました。

修正箇所については、事務局から後日各役員にメール送信し、コメントを求めることになりました。

- ・25年度事業報告(案)については一部修正・追記のうえ、了承されました。
- ・24年度決算(案)については了承され、25年度予算(案)については、一部修正のうえ、了承されました。

2. 会報 232号掲載予定記事について

資料に基づき、検討のうえ決定しました。

なおメーリングリスト登録の勸奨案内を記載することになりました。

3. 新しい事業について

- ・新入会員オリエンテーションの企画(案)が異議なく了承されました。
- ・一般向け「会の活動報告」の企画(案)が異議なく了承されました。
- ・会員向け「守る会野鳥サロン」の企画(案)が大綱了承されました。運営方法とチーム編成は事務局で今後調整。

4. 役員改選について

資料に基づき、検討のうえ、大綱了承されました。

- ・退任者：宮下(副会長)、大矢(幹事)、首藤(幹事 顧問)、田丸(幹事)
- ・三役、会計監査：間野会長、野口副会長、会計監査 2名は留任。副会長候補として古出。
- ・新任幹事：畠中、石渡の2名が候補。他は今後役員会で検討。

5. 報告事項

資料に基づき、民が民を支える仕組み構築モデル事業、JBF2012年第6回実行委員会、美手連関連の諸活動について、それぞれ状況報告がされました。

鳥 だ よ り

- | | |
|--|---|
| 1.21 [江蔵地] アリ約20川岸の木に群れてとまる
鈴木静治 | の水たまりで水を飲む
飯泉仁 |
| 1.21 [江蔵地] ベニシヨ(3) アトリと一緒に群れる
鈴木静治 | 1.29 [千間橋] チョゲンボウ(1) 停飛しながら田の上で餌探し
鈴木静治 |
| 1.21 [北新田] 材カ(1) 越流堤横柳上
中野久夫 | 1.30 [北新田] クサキ(1) 4号排水路で
中野久夫 |
| 1.21 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去
中野久夫 | 1.31 [千間橋] ノリ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治 |
| 1.21 [北新田] チョゲンボウ(1) 電線から飛去
中野久夫 | 1.31 [北新田] ヌヅ(4) 4号排水路で
中野久夫 |
| 1.23 [江蔵地] ハイヒョウ(1) 川上空でカスに絡まれる
鈴木静治 | 1.31 [北新田] ノリ(1) 帆翔
中野久夫 |
| 1.23 [下沼田] フウ(1) 田の上を飛ぶ
鈴木静治 | 1.31 [北新田] チョゲンボウ(1) 電柱から飛去
中野久夫 |
| 1.23 [千間橋] チョゲンボウ(2) 停飛しながら田の上で餌探し
鈴木静治 | 2.01 [相島] チョゲンボウ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治 |
| 1.23 [布佐] ヒ(1) 上空でカスに絡まれる
鈴木静治 | 2.01 [下沼田] 材カ(1) 道端の葦の先にとまる
鈴木静治 |
| 1.23 [千間橋] フウ(1) 川の中州、葎原を低空飛翔
鈴木静治 | 2.01 [中沼田] ノリ(1) ヒボリガヲ 1羽とヒマガヲの群れに追われる
鈴木静治 |
| 1.23 [北新田] コハチヨウ(8) 中央学院下の水路際のたんぼ。成鳥4羽、若鳥4羽計8羽で、みぞれ混じりのたんぼ中央でかたまって休んでいました。
松本勝英 | 2.01 [中沼田] ヒ(1) 上空で鳴き声
鈴木静治 |
| 1.24 [下沼田] ノリ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治 | 2.01 [中沼田] ノリ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治 |
| 1.24 [下沼田] チョゲンボウ(1) 電柱にとまる
鈴木静治 | 2.02 [酒井根 6丁目下田の森] マリ(2) 11:21、鳴きながら木の枝に飛来
飯泉仁 |
| 1.24 [千間橋] ウラ(1) 草の中より、水平に低空で一直線に飛び近くの草の中に隠れる
鈴木静治 | 2.02 [手賀新田] コハチヨウ SP 約 25 鳴きながら上空を雁行飛翔
鈴木静治 |
| 1.24 [千間橋] コシク(1) 上空でノスリと並行して飛ぶ
鈴木静治 | 2.02 [手賀新田] ノリ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治 |
| 1.25 [下沼田] ヒ(1) 強風に乗り飛ぶ
鈴木静治 | 2.04 [緑 2丁目] ウグイス(1) 4日朝ウグイスの初音を聞きました。昨年より、20日も早かった。
木村稔 |
| 1.25 [千間橋] ノリ(1) 上空より田に降りる
鈴木静治 | 2.05 [北新田] 材カ(1) 越流堤横柳上
中野久夫 |
| 1.27 [酒井根 6丁目下田の森] マリ(6) 10:03、鳴きながら木の枝に飛来し、近く | 2.07 [岡発戸新田] チョゲンボウ(1) ヒボリガヲ 2羽に上空で絡まれ飛び去る
鈴木静治 |
| | 2.07 [北新田] コハチヨウ(8) 稲刈り田で採餌
中野久夫 |
| | 2.09 [酒井根 6丁目下田の森] アゲ(1) 9:32、枝を突きながら餌を物色
飯泉仁 |

- 2.10 [酒井根 6 丁目下田の森] ヤガラ(1) 9:50、鳴きながら出現 飯泉仁
- 2.10 [曙橋] ヒ(2) 14:14、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.10 [大井新田先手賀沼] オハクホウ(5) 15:48、大津川河口先の干潟で休んでいた 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.10 [大井新田先手賀沼] シゴ(1) 15:48、水面で魚を捕食 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.10 [片山新田先手賀沼] フル(1) 13:36、葦原上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.10 [手賀沼辺] ハブサ(1) 上沼1 染谷迪夫・北原建郎・松本勝英
- 2.10 [片山新田先手賀沼] シハリアジユリ(1) 13:36、葦原で採餌 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.12 [北新田] ヌヅ(1) 4号排水路で 中野久夫
- 2.13 [北新田] チョゲンボウ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 2.14 [布佐平和台] ヤガラ(1) 庭のから付き落花生の実を食べる 鈴木静治
- 2.15 [布佐] フカ(1) 薄暗い雨の森より鳴き声 鈴木静治
- 2.17 [酒井根 6 丁目下田の森] アガラ(1) 9:56、南側斜面林で鳴きながら木の幹をつついていた 飯泉仁
- 2.20 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 2.24 [酒井根 6 丁目下田の森] アガラ(1) 10:54、南側林縁を鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.24 [正連寺こんぶくろ池公園] オカカ(1) 13:15、雄個体が観察路脇の松の木周辺に鳴きながら飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.24 [酒井根 6 丁目下田の森] ハイカ(1) 9:23、上空を北北西方向から北北東方向に移動 飯泉仁
- 2.27 [北新田] ハブサ(1) 電柱上 中野久夫
- 2.27 [北新田] 材カ(1) 2号排水路横で 中野久夫
- 2.28 [手賀沼] オハクホウ(5) (下沼)。11:00 隊列を組んで泳ぎながら上流に移動していた。 間野吉幸
- 3.01 [布佐平和台] ヤガラ(1) 庭の餌のピンナツを食べる 鈴木静治
- 3.01 [北新田] ウグ(1) 3号排水路で囀り 中野久夫
- 3.03 [酒井根 6 丁目下田の森] アガラ(1) 9:08、木の枝に鳴きながら飛来 飯泉仁
- 3.04 [酒井根 6 丁目 田の森] ウグ(2) 10:04、北側林縁の中で囀っていた 飯泉仁
- 3.04 [北新田] ヌヅ(2) 2・4排水路で 中野久夫
- 3.04 [北新田] ヒ(1) 飛翔 中野久夫
- 3.05 [千間橋] フル(1) 田の上を飛翔 鈴木静治
- 3.05 [布瀬新田] チョゲンボウ(1) 上空高く飛ぶ 鈴木静治
- 3.05 [布瀬新田] ノリ(1) 堤防の標識にとまる 鈴木静治
- 3.05 [北新田] アガラ(1) 斜面林で 中野久夫
- 3.05 [高野山] ノリ(15) 群れ 仲村昇
- 3.06 [別所] オトリ約 20 調整池を泳ぐ 鈴木静治
- 3.06 [別所] ベニシコ(1) 林の高木にとまる 鈴木静治
- 3.07 [上沼田] ヒ(1) 森の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 3.07 [中沼田] チョゲンボウ(2) 電柱にとまる 鈴木静治
- 3.07 [中沼田] 材カ(1) 小川の岸の葦にとまる 鈴木静治
- 3.07 [北新田] ノリ(1) 飛翔 中野久夫
- 3.07 [岡発戸新田] チョゲンボウ(1) 池水面近くを羽ばたかず飛翔 鈴木静治
- 3.07 [岡発戸新田] ノリ(1) 叢の中の柳にとまる 鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫・間野吉幸・金子雅幸・蒲田知子
- 3.07 [岡発戸新田] フル(1) 上空高く飛ぶ 鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫・間野吉幸・金子雅幸・蒲田知子
- 3.08 [千間橋] ヒ(1) 田の上空でフルリガラに絡まれる 鈴木静治
- 3.08 [千間橋] ノリ(1) 堤防の標識にとまる 鈴木静治
- 3.08 [千間橋] ノリ(2) 二番穂の田と河原を低空で飛翔 鈴木静治
- 3.08 [布佐] ウグ(1) 上手ではない囀り 鈴木静治
- 3.09 [江蔵地] ベニシコ(3) 柳の花穂を啄ばむ 鈴木静治
- 3.09 [江蔵地] ノリ(1) 木の繁みにとまる 鈴木静治

- 3.09 [江蔵地] ヒ¹(1) 川の上空を滑空する 鈴木静治
- 3.09 [千間橋] ミミク(1) 二番穂の田を低空で飛翔後、畦の杭にとまる、うす暗くなくても動かず 鈴木静治
- 3.09 [布佐平和台] ヲウ¹ホ¹ウ(1) 鉄塔近くでハジ¹カ¹ラ¹に追われ声を上げ逃げる 鈴木静治
- 3.09 [北新田] ヲウ¹ (1) 4排水路で 中野久夫
- 3.09 [北新田] ハ¹ニシコ(3) 玉原で 中野久夫
- 3.10 [下沼田] ミミク(1) 強風の中、田の畦で休む 鈴木静治
- 3.10 [千間橋] ヲウ¹ホ¹ウ(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治
- 3.10 [手賀沼] オ¹ハ¹ヨ¹ウ(5) 上沼 5 染谷迪夫・北原建郎・松本勝英
- 3.10 [手賀沼] ミコ¹(1) 上沼 1 染谷迪夫・北原建郎・松本勝英
- 3.11 [泉] マ¹ウ(2) 14:40、池に水を飲みに来る 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [泉] カ¹ジ¹(2) 15:28、鳴きながら林の中を移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [泉] ヤ¹カ¹ラ¹(1) 15:46、鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [片山新田先手賀沼] ミコ¹(1) 12:53、水面の杭に止まって魚を採食 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [高野山新田] ハ¹イ¹チ¹ユ¹ヒ¹(1) 13:31、沼の葦原から飛び立ち、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [箕輪新田先手賀沼] ヒ¹(1) 12:40、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.11 [下沼田] ノ¹リ(1) 畦の木にとまる 鈴木静治
- 3.12 [下沼田] ヲウ¹ゲ¹ホ¹ウ(1) 田の上空で停飛 鈴木静治
- 3.12 [北新田] ヒ¹(1) 飛翔 中野久夫
- 3.12 [北新田] ハ¹イ¹チ¹ユ¹ヒ¹(1) 、玉原上を飛翔 中野久夫
- 3.14 [布佐平和台] ヒ¹(2) テ¹ス¹ト上空を飛ぶ 鈴木静治
- 3.14 [大津川] ハ¹ヤ¹サ(2) 鉄塔付近で争う 安野昌彦
- 3.15 [下沼田] ノ¹リ(1) 電柱、杭にとまる 鈴木静治
- 3.15 [千間橋] オ¹カ¹(2) 夕暮時、葦にとまり鳴く 鈴木静治
- 3.15 [浅間前] ヲウ¹ゲ¹ホ¹ウ(1) 夕暮時、田を低空飛翔 鈴木静治
- 3.15 [北新田] ノ¹リ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 3.15 [北新田] ハ¹ヤ¹サ(1) 電柱上 中野久夫
- 3.15 [北新田] ハ¹イ¹チ¹ユ¹ヒ¹(1) 、耕田上を飛翔 中野久夫
- 3.16 [東中新宿] ヲ¹ヒ(1) 8:46、住宅街の中を鳴きながら移動 飯泉仁
- 3.16 [江蔵地] ハ¹ニシコ(2) 川岸の柳の花穂を食べる 鈴木静治
- 3.16 [江蔵地] ア¹リ¹約10川岸の柳の間を飛ぶ 鈴木静治
- 3.16 [北新田] ヲウ¹ (2) 4号排水路で 中野久夫
- 3.17 [正連寺] オ¹カ¹(1) 10:23、警戒の声を出していた 飯泉仁
- 3.17 [江蔵地] ヲ¹ヒ(1) 上空を通過、取手方面に飛ぶ 鈴木静治
- 3.17 [江蔵地] ヒ¹(1) 上空高く飛ぶ 鈴木静治
- 3.17 [江蔵地] オ¹カ¹(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治
- 3.17 [上沼田] ノ¹リ(1) 電柱にとまる 鈴木静治
- 3.17 [上沼田] ヲウ¹ゲ¹ホ¹ウ(1) 上空を飛ぶ 鈴木静治
- 3.17 [下沼田] ヲウ¹ゲ¹ホ¹ウ(1) 上空を停飛しながら獲物を狙う 鈴木静治
- 3.17 [下沼田] ノ¹リ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 3.18 [布佐平和台] ヒ¹(1) 住宅地を低空で飛ぶ 鈴木静治
- 3.19 [北新田] ハ¹イ¹チ¹ユ¹ヒ¹(1) 、玉原上を飛翔 中野久夫
- 3.20 [増尾稲荷下 増尾城址公園] ヤ¹カ¹ラ¹(2) 14:22、ウ¹イ¹シ¹ノの枝に飛来し、花芽を食べていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 3.20 [布佐平和台] ヲ¹カ¹ヨ¹ウ¹sp(4) コ¹-コ¹鳴きながら上空を一列に飛ぶ 鈴木静治
- 3.20 [北新田] ノ¹リ(1) 電柱から飛去 中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名
アオサギ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、アトリ、アリスイ、イソシギ、ウグイス、ウズラ、ウソ、エナガ、オオジュリン、オオセグ

ロカモメ、オオタカ、オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キセキレイ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、クロジ、ゴイサギ、コガモ、コクマルガラス、コゲラ、コサギ、コチドリ、コチョウゲンボウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、コミミズク、シジュウカラ、シベリアジュリン、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、ノスリ、ハイロチュウヒ、ハイタカ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒガラ、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ビンズイ、フクロウ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、マヒワ、ミコアイサ、ミサゴ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ、ルリビタキ

計 94 種

<番外種> アイガモ、アヒル、エジプトガン、カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数	
安野昌彦	55
飯泉仁	455
飯泉仁・飯泉久美子	287
小澤淳宏	1
木村稔	1
鈴木静治	559
鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫	
・間野吉幸・金子雅幸・蒲田知子	32
鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫	
・間野吉幸・金子雅幸・蒲田知子	
・谷山晴男・猪爪敏夫・間野吉幸	
・金子雅幸・蒲田知子	1
鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫	
・間野吉幸・池田日出男	25
染谷迪夫・北原建郎・松本勝英	34
染谷迪夫・木村稔・田中功	29
中野久夫	102
仲村昇	1
平岡考	14
松本勝英	1
間野吉幸	1
総計	1598

浅井 久

【メーリングリストへの勧誘】

当会のメーリングリスト「ab-yacho」へ未加入の会員は是非ご加入下さい。メーリングリストは鳥情報、会からのお知らせ等をすばやく入手することができます。

申し込み先 金子雅幸

【ご寄付】NPO 法人 ACOBA さん、池内大典さん、類地佑子さんよりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

【新入会員紹介】五十嵐博実（栄町）

ほーほーどり No. 232 (2013年5～6月号)

発行 2013年5月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務所 270-1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方

連絡先 277-0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04-7163-7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円 (大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)